


当館キャラクター  
「ごろすけ」

 巻頭言 多くの方に快適な読書環境を目指して

福島県立図書館長 齋野 和則



「読書バリアフリー法」をご存じてでしょうか。

正式には「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」という名称で、令和元年6月に作られた法律です。

視覚障がいによる障害者手帳の交付を受けている方は点字図書館をご利用いただくということもあり、公共図書館は、「読む」行為が難しい方にとっては使いにくい施設だったかも知れません。

そうした中、今回の読書バリアフリー法は、例えば、障害者手帳の交付を受けるほどではないが目の病気などにより視力が著しく低い方や、発達障害等により読み書きが難しい方、身体の障害で本を支えられない方など、「読む」という行為が困難な方でも読書が楽しめるよう、環境整備をしましょうということを目指して作られました。

当館においても、この法律を受けて、障がい等のある方向けのサービスの充実を図っています。①「読む」行為を助ける道具として、ルーペ、老眼鏡のほか、読みたい行に視点を集中することができるリーディングトラッカーやリーディングルーペを用意しています。また、40倍まで拡大して見ることができる拡大読書器も設置しています。通常のカラー表示のほか、白黒表示や反転表示など、見やすさに合わせて選択できます。②「資料」側からの支援として、今年度は大きい文字で印刷されている「大活字本」を精力的に収集しているほか、こどものへやでは点字付きの触る絵本なども所蔵しています。③「読む」行為が難しい方への支援として、プレクストーク(音声データで記録されたデジタイズ資料を再生する専用機器)も用意していますし、対面朗読サービス(現在は新型コロナウイルス感染症対策で休止中)も行うこととしています。

障がいの程度によって利用いただけるサービスが異なることから、これらのサービスをご利用いただく場合には、事前に利用登録を行っていただくことになります。まずは、当館にご相談ください。

また、視覚以外の問題をお持ちの方でも利用しやすいよう取組を行っています。

車椅子を利用者入り口に用意しています。閲覧席や蔵書検索では車椅子専用席をいくつか設けていますので、優先的にお使いいただけます。車椅子で入館いただく場合、電話か正面玄関下のスロープ入り口にあるインターホンで申し付けいただきますと、職員がお伺いします。

車椅子用トイレは、オストメイトにも対応しています。

「聴こえ」でお悩みの方には、この度「コミュニケーション(対話支援機器)」を導入しました。また、必要に応じて筆談での対応も行っておりますので遠慮なく申し付けください。

# 新型コロナウイルス感染拡大防止に関する図書館の取組み



## 新型コロナウイルス感染症の広がり

令和2年1月に日本で初の感染者が確認されてから、感染は全国に広がり始め、感染者の多い地域では休館する図書館もありました。また、3月2日から春休みまで、全国の学校等に対し臨時休業が要請され、危機感は身近なものとなりました。福島県では3月に初の感染者が確認され「福島県新型コロナウイルス感染症対策基本方針」が定められました。図書館として利用者に安心して利用していただけるよう対策を検討し、「入館の際の手指消毒」や「マスク着用」などのお願いに加え、隣り合う席の間引きや返却ポストの24時間開放を実施しました。

不要不急の外出自粛要請などをうけ、4月3日から休館を挟んだ6月3日までは臨時措置として、一人10冊15日間貸出を倍の20冊30日間(延長なし)としました。4月16日の全国の非常事態宣言の発令を受け、当館も4月19日から5月15日までの27日間休館しました。休館中には、来館しなくても利用できる「資料宅配サービス」や文書やインターネットによる調査相談、複写依頼の対応、Twitterでの情報発信等を行いました。また、再開館に備え、各カウンターに飛沫防止シートや並ぶ際の間隔を2メートルとっていただく足跡ラインを設置しました。

## 再開館後の対応

5月16日再開館の際は貸出を中心としたサービスとし、新聞や雑誌の最新号、書庫資料の閲覧、調査相談や複写、インターネット等の利用を制限しました。利用者の皆様にはご不便をおかけし、県立図書館の機能を十分に果たせないもどかしさがありました。

6月3日からは利用席を間引いて配置し、調査相談や複写も長時間にならないよう呼びかけながら利用再開しました。また新聞、雑誌の最新号、書庫資料の閲覧も再開しました。インターネット等の利用は時間延長なしで再開、そのうちの2台は立ったまま短時間利用向けのフリーの端末としました。

安心して利用できるよう来館者の皆様にも様々なご協力をお願いしています。「マスク着用」「手指消毒」「長時間滞在の回避」「館内での食事の休止」などです。感染防止対策が定着してきており大きなトラブルもなくご協力いただいています。

職員はマスク着用、手指消毒の徹底、手洗いの励行、毎日の体温測定などを実施しています。館内の換気のため排煙窓を常時開け、カウンター等は定期的に消毒しています。返却資料はカバーのついているもの(透明フィルムで覆ってあるもの)はアルコール消毒、カバーのついていないものは24時間取り置きとしました。また、11月20日より「図書除菌機」を設置し、借りた資料を紫外線で消毒して安心してご利用いただいています。

3月から6月までは全ての行事を中止または延期の措置をとりました。7月には行事再開のため「行事ガイドライン」を作成し、対策を講じながら実施しました。



間引きした利用席 (R2/3/6~)



間隔を空けた新聞閲覧席 (4/3~10/1)



立って利用するインターネット端末 (6/5~)

## 統計からみる図書館利用

### 入館者数の推移

4月、5月は不要不急の外出自粛や27日間の休館があり、大きく減少しました。開館日1日当たりでは前年度比 53.7%でした。5月は再開館後も新聞雑誌・書庫資料等の館内利用や利用席・インターネット等の利用制限を設けたことも減少の要因です。6月以降は徐々に利用制限を解除しましたので、資料閲覧や調査研究をする方も来館するようになり少しずつ回復してきました。

こどものへや入館者も同様に減少しました。本来であれば、親子で来館し、絵本コーナーなどで読み聞かせをしたり一緒に絵本を選んだりする様子が見られるのですが、保護者のみが来館し、子どものために選んで借りていくという利用形態が多くみられました。また、学校単位での図書館見学やおはなしかいのための来館も減少しました。

### 貸出冊数

4月、5月は入館者数が半減したのに対し、一人20冊30日間貸出にしたこともあり、1日当たりの貸出冊数は前年度より4割増加しました。開館日数が少ないため実数では昨年度より減少していますが、不要不急の外出を回避し、自宅で過ごす時間を読書等で有意義に過ごしていただくという趣旨には沿った形となりました。8月以降はほぼ例年並みに回復し、12月末前年度比 96.0%となっています。

一方、大学がリモート授業になり本来であれば他地域に住み、大学に通う予定の学生が、福島に在住し当館の資料を利用するという様子が見られました。勉強に必要とする専門書を他県の大規模図書館から借り受ける件数も増え、6月から10月は借用による提供の冊数は増加しました。

### 非来館サービスの利用増

郵送利用登録や資料宅配サービスは、休館中の利用のほか外出を控える方にも利用され、件数は増加しました。受取館指定サービスは、今年度は受取を希望する市町村立図書館の休館がありましたので大きな伸びにはなっていませんが増加しています。

調査相談については、休館や対面での調査相談を受け付けない時期があったことから全体件数は減少しましたが、非来館で受け付けた件数は倍増しました。一方、子どもたちからの問い合わせは対面で受けるものがほとんどなので、外出自粛要請や休館に加え、夏休みが短かったこと等の影響を受け自由研究や読書感想文に関する問い合わせ等も減少しました。

複写については、休館中を含む期間も文書・FAX・インターネットでの申し込みを受け付けました。非来館調査相談から遠隔複写につながることもあり、全体として非来館サービスの利用が増加しました。

**世**界規模の感染症を前に図書館には何ができるのか、利用者サービスとしての方向性を考え続ける一年となりました。この原稿を書いている時点で感染が拡大し、県内に不要不急の外出自粛等の緊急対策が要請されました。今後も利用者の皆様と共に感染リスク回避と図書館サービスの両立を模索しながら対応してまいります。



図書除菌機(11/20~)



飛沫防止パネル(R3/1/13~)



館内掲示のポスター





## 震災から10年 福島県立図書館支援の軌跡

東日本大震災発生後、当館は、福島県内の図書館関係施設に対する全国からの支援の窓口として、その役割を担ってきた。また、県立図書館としての支援活動も行ってきた。その活動の中で、基本としていたことが「必要なものを必要なときに必要なところへ」である。そのため、支援を受ける側の意向を常に大事にし、支援と受援の機会にズレを生じさせないことが主眼であった。以下活動の概要を整理する。



### 1. 被災自治体への図書館活動(運営面)支援事業

震災発生後、最初に市町村が求めた情報は県内図書館の被災状況であった。県内図書館のほとんどが休館を余儀なくされたが、状況は館により異なり、早い段階での再開を目指す図書館もあったことから、ネットワークによるサービス環境を確認したものと思われる。当館のライフラインが停止していたことから、電力の回復を待ち、復旧した3月15日、電話による状況確認を行うとともに当日中にホームページに掲載した。また、避難所への資料支援の可能性を踏まえ、市町村支援(移動図書館車)用資料の排架をこの日までに終了させ、翌16日には、知り得た被災情報を基に、支援が必要ではないかと推測される自治体に連絡をしている。

平成23年4月1日、避難自治体に対して改めて資料支援の用意があることを文書により通知を行った。その後、避難状況が一次避難から二次避難へと移っていく過程において、5月16日、避難者を受け入れている自治体の図書館に対して、資料支援の通知を行った。また、当館の相互貸借機能が停止していたことから、5月19日、市町村支援(移動図書館車)用資料を希望により1冊単位で貸し出すことを決定している。

震災から半年が過ぎた9月18日、避難自治体による避難先での仮設小・中学校を設置に合わせ、仮設学校への資料支援について体制を整えた。この頃になると、支援の対象(場所)がある程度定まってきたため、9月22日に「県立図書館における東日本大震災の復旧・支援体制」を策定している。しかしながら、本県にあっては、原子力発電所事故災害という特殊な状況から、支援を受ける側の体制も整わず、また、当館も被災地に入ることができないこと等もあり、本格的な支援事業は平成24年度から動き出すことになる。(次項参照)

その第一弾は、平成24年4月24日の、葛尾村の貝山仮設住宅(三春町)への移動図書館車巡回であり、その後、移動図書館車と協力車の巡回時に、対象自治体の状況確認と運営相談を継続的に行っている。また、個別の視察・運営相談も状況に照らし実施しており、檜葉町や飯館村、葛尾村に対して、公民館図書室再開に向けた運営相談を実施している。特に、葛尾村については、JLA<sup>(1)</sup>と協力し、4日間をかけて全蔵書の整理(分類・台帳作成)を行った。平成25年5月には帰還困難区域内にある大熊町図書館を、翌6月には、居住制限区域内富岡町図書館を視察し、状況の確認を行っている。その後富岡町は、平成30年4月に図書館活動を再開しているが、再開準備に向け、前年度に二度現地を訪問し運営相談を実施している。



大熊町図書館視察の様様  
(平成25年5月)

## 2. 当館が行った資料支援事業

震災直後の動きとしては、喫緊に資料提供を必要としている施設に対しての個別対応を実施している。4月5日には、県内最大の一次避難所であった「ビックパレットふくしま(郡山市)」に1,000冊を貸し出している。同施設に避難をしていた富岡町と川内村が、この資料と他からの寄贈資料を基に合同の仮設図書館(同年5月13日から8月31日)を開設している。また、学校関係では同じ4月に、被害の大きかった須賀川市立須賀川第一小学校と鮫川村立鮫川中学校に、学校図書館活動支援用セット貸出を行っている。翌5月には、避難をしている子どもたちが多く通う福島市立佐原小学校にも、spff\*<sup>(2)</sup>との連携事業としてセット貸出を行った。

当館としての本格的な支援事業の実施は、前項の通り、平成24年4月の移動図書館車に始まる。当初は、避難先の仮設住宅及び仮設校への巡回が主であったが、避難自治体の地元帰還が続いても継続的に支援を続けている。令和2年度までの資料提供実績は、以下の通り。

- (1) 移動図書館車…8自治体 | 支援学校に対して、稼働155回、貸出冊数 30,796 冊
  - (2) 図書館活動支援貸出…1施設に対して1,000冊
  - (3) 学校図書館活動支援貸出…1学校に対して1,500冊
  - (4) 学校図書館活動支援セット貸出…12学校(延べ27校)に対して、162セット、6,498冊
  - (5) 資料譲与…1学校に対して592冊
- 合計 40,386 冊

## 3. 当館が仲介した全国からの支援事業

全国からの資料支援については、受ける側の状況を考慮し、極力必要と思われるものに限り受け入れた。明らかに被災地支援を寄贈趣旨として寄贈された資料は26,096冊。その内、当館が移動図書館車や協力車\*<sup>(3)</sup>等により搬送したものは12,766冊であった。この他、研修会等により当館に来館した際、または、図書リサイクル会において、県内の図書館関係施設に広く提供された。

支援は一方的に贈られたものばかりではなく、状況に照らし当館から依頼したものもあった。避難先での仮設学校が設置されると、調べ学習での資料不足という課題が浮き上がった。支援資料の多くは一般書と児童書であり、学習環境に対応することができなかったため、JLA等の協力を得て寄贈を募り、岡山県立図書館及びインターネット関連企業より、合計1,298冊の学習用資料が提供された。また、仮設住宅においては、園芸関係資料の要求が多かったため、大震災出版対策本部\*<sup>(4)</sup>及び東京都公園協会に依頼し、合計1,249冊の資料提供を受けた。

この他、県外の図書館からは、レファレンスの範囲拡大(被災地図書館へのレファレンス業務の代替受付)の意思が示されたり、JLAや全国公共図書館協議会は、公衆送信権の時限的制限(図書館所蔵資料の複写物を電子メール等で送信)についての要望を、著作権権利団体や文部科学省に対し提出したりしている。

最後に、福島県の復興事業は継続の途中にある。図書館においても同様に、双葉町図書館、大熊町図書館、浪江町図書館が休館を続け、県内図書館ネットワークの復興もその途中である。福島県立図書館は、今後も関係者皆様の協力を得ながら、県内図書館界の完全再生を目指すものである。

\* (1) …公益社団法人日本図書館協会

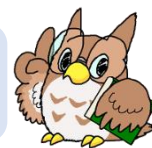
\* (2) …ふくしまサイエンスプラットフォーム:福島大学が県内の科学館や県の公設試験場等と連携設置した運営協議会。

\* (3) …福島県立図書館が行う、県内図書館間を定期的に巡回する連絡車。

\* (4) …東日本大震災後に大手出版社が合同で立ち上げた支援団体。



## 新システムの導入とホームページのリニューアルについて



**福**島県立図書館では、令和3年1月1日に図書館情報システムの更新を行いました。

今回更新したのは、図書館のデータを管理する「基幹システム」、利用者の皆様に蔵書検索や資料の予約などで活用いただく「公開システム」、ホームページや横断検索などのWebサービスを提供する「クラウドシステム」、館内の機器を接続するための「館内LANシステム」です。また、これらのシステムに付随して、館内でのWebアクセス環境を提供するインターネット端末についても更新を行ったほか、館内インターネット席などの申し込みを受け付ける「座席予約システム」を新たに導入しました。

館内の蔵書検索端末の設置場所も変更しました。

検索端末を従来の検索コーナー（エントランス）だけでなく、人文科学・社会科学・自然科学・地域資料の各コーナーに配置したことで、館内の様々な場所で本を検索できるようになりました。どうぞご活用ください。

これからも利用者の皆様にとって利便性の高い図書館情報システムの在り方について引き続き検討してまいります。



▲新しくなった蔵書検索端末

**ま**た、システム更新にあわせ、令和3年1月5日からホームページをリニューアルしました。新ホームページは、アクセシビリティやマルチデバイス、多言語に対応して構成されており、年齢や身体的制約、利用環境に関係なく全ての県民の皆様に快適にホームページをご利用いただけるよう、情報提供や機能に配慮をしています。具体的には、音声読み上げ機能やカラーユニバーサルデザイン等ウェブコンテンツ（掲載情報）に関する日本産業規格（JIS X 8341-3）を踏まえ、ホームページの作成をしています。また、モバイル端末（スマートフォン、携帯）などにも対応しておりますので、どんな端末からでもアクセスがしやすくなっています。さらに、英語翻訳に加え中国語、韓国語、スペイン語やベトナム語にも対応しています。より一層使いやすくなりましたホームページをぜひご利用ください。



携帯サイトQRコード

▲「こどものへや」ページ

◀「トップ」ページ



## 福島県内図書館情報（新館紹介）

福島県立図書館では協力車で

県内の図書館を巡回し、図書館間の相互貸借や情報交換を行っています。令和2年度は巡回した図書館を図書館のキャラクター「ごろすけ」と一緒に Twitter で紹介させていただきました。

協力車で訪れた図書館の中から、新しい図書館を紹介します。



福島県立図書館 Twitter  
@fukushima\_p\_lib

### 県北

## 国見町図書館

開館日：令和2年10月1日

親月台文化センター図書室が「国見町図書館」となり10月1日にオープンしました。

国見町では、これまでも「子ども司書講座」などを実施し、読書活動が充実した町ですが、「読書の町・国見」を基本理念とした図書館ができました。貸出対象を広域（伊達郡・伊達市・福島市・宮城県白石市・丸森町在住者・国見町内在勤者）としている図書館です。

図書館では時節に合わせ、「皆さんと同じ時代を生きたベストセラー」（成人式）、「“浮世絵”の楽しさ・奥深さを知る」など時節に合わせた展示を行い、ホームページでお知らせしています。



◇国見町図書館

<https://www.town.kunimi.fukushima.jp/finder/>

### 県南

## 矢吹町図書館

開館日：令和2年10月14日



◇矢吹町図書館

<https://www.library-yabuki.jp/>

矢吹町図書館が、公民館・図書館機能・子育て世代活動支援機能・観光交流機能の4つの機能を複合化した新しい施設「KOKOTTO（ココット）」に移転しました。

矢吹町出身で日本現代詩人会の重鎮であった大滝清雄氏にちなみ、個人詩集を集めた大滝清雄文庫や、絵本のひろば、ティーンズコーナーなどがあり、フリーWi-Fiや町民用パソコンも利用できます。絵本の広場の近くには育児や家事に関する本・雑誌が置かれ、親子で利用しやすい工夫がされています。



# 福島県立図書館 地震被害報告



令和3年2月13日に発生した地震により、福島県立図書館では甚大な被害がありました。

## 休館から開館までの経過

- ・2月14日(日) 臨時休館(地震被害による)
- ・2月15日(月) 通常休館日
- ・2月16日(火)から2月18日(木) 図書特別整理期間により休館(当初予定は2月16日から2月25日まで)  
また、2月16日(火)から地震の影響によりWebサービスの一部を当面の間、休止
- ・2月19日(金)から当面の間、臨時休館
- ・3月11日(木)再開館

## ■公開図書室の被害状況について

### ガラスの破損



### 天井、上部の部品破損・落下



### 棚の破損



### 資料の落下



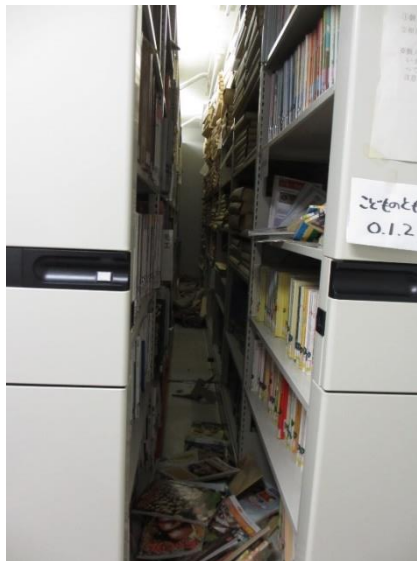


■ 図書館書庫の被害状況について

資料の落下



電動書庫の資料の落下・挟まり



■ 資料の被害状況について

棚の下敷き



資料の破れ・折れ曲がり



■ 図書館敷地内の被害状況について

軒天破損



正面玄関外 石畳の破損



この他にも、ここに掲載できないほど図書館の至る所で被害が発生し、連日職員は復旧作業に追われました。詳しくは、HP や Twitter をご覧ください。

地震の被害・復旧状況をTwitterで随時お知らせ



福島県立図書館 @fukushima\_glib

昨夜の地震で、図書館は臨時休館中です。揺れが非常に大きかったため本棚からは、かなりの冊数の本が床に落下しました。また、閲覧席付近の上部のガラス片が破損したり、柱上部のパネルが落下したりしました。県内では余震がまだまだ続きますので、皆様におかれましてはお気をつけてお過ごしください。



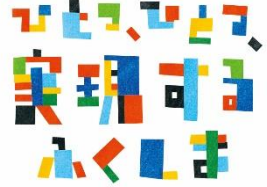
午後3:47 · 2021年2月14日 · Twitter Web App

図書館のTwitterでは連日、図書館の復旧状況についてお知らせをしました。関係各所からTwitterを見て連絡をしたというお声もいただきました。

## 福島県地域資料寄贈のお願い

福島県立図書館では、郷土の過去・現在を未来へ伝える資料として、福島県に関する地域(郷土)資料を収集・保存し、県内外の方にご利用いただいています。地域(郷土)資料とは次のような資料です。

- ・福島県や県内各地域に関する資料(歴史、民俗、地誌など)
- ・福島県内企業・団体・行政機関等の発行した資料
- ・福島県内に在住する方、または福島県出身の方の著作
- ・福島県にゆかりのある方の伝記



- ※ 図書だけでなく、雑誌、地図、パンフレット、CD、DVDなども収集しています。
- ※ 東日本大震災に関する資料は特に重点的に収集しています。

上記のような資料を刊行された際は、当館へ **2部**(保存・貸出用)ご寄贈いただけるとたいへん嬉しく思います。また、地域(郷土)資料の蔵書を処分される際にも、ご一報ください。

## 図書の御寄贈

以下の団体をはじめ、多くの方々から図書の御寄贈をいただきありがとうございました。寄贈いただいた資料は、当館の活動を通じて広く県民の皆様の利用に供してまいります。

### 【県民のくらし応援文庫の御寄贈】(敬称略)

- 福島ロータリークラブ[161冊 300,000円相当] (令和2年8月15日)
- 大槻電設工業株式会社[69冊 100,000円相当] (令和2年9月18日)
- 一般財団法人ふくしま未来研究会[540冊 1,000,000円相当] (令和2年11月20日)
- 福島ヤクルト販売株式会社[27冊 50,000円相当] (令和3年2月3日)

### 【通常御寄贈】(敬称略)

- 国際ゾンタ福島ゾンタクラブ[61冊 100,000円相当] (令和2年2月28日)
- 日産自動車株式会社[300冊] (令和2年3月12日)
- NPO法人チームふくしま[86冊 県立・市町村図書館、公民館分] (令和2年8月20日)
- 中山義秀顕彰会[100冊 県立・市町村図書館、公民館分] (令和2年10月5日)
- 福島信夫ライオンズクラブ[62冊 100,000円相当] (令和2年10月30日)
- 一般財団法人福島県教職員互助会[1,025冊 2,200,000円相当] (令和2年11月13日)
- 溝口勝[270冊 県立・市町村図書館、公民館分] (令和2年11月29日)
- 佐々木智子[300冊 県立・市町村図書館、公民館分] (令和2年12月18日)
- 日産自動車株式会社[240冊] (令和3年3月5日)

### 【長田弘文庫】

令和2年12月23日に詩人・長田弘氏の御遺族より、当館の「長田弘文庫」に追加の御寄贈がありました。長田氏が中学・高校時代に寄稿した学校文集を中心とした8点です。これにより、同文庫の冊数は8,527冊になりました。

『福島県立図書館報 あづま』第70巻(通巻274号)

令和3年3月18日

発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島県福島市森合字西養山1番地 電話:024-535-3218(代表)

URL:<https://www.library.fcs.ed.jp/>